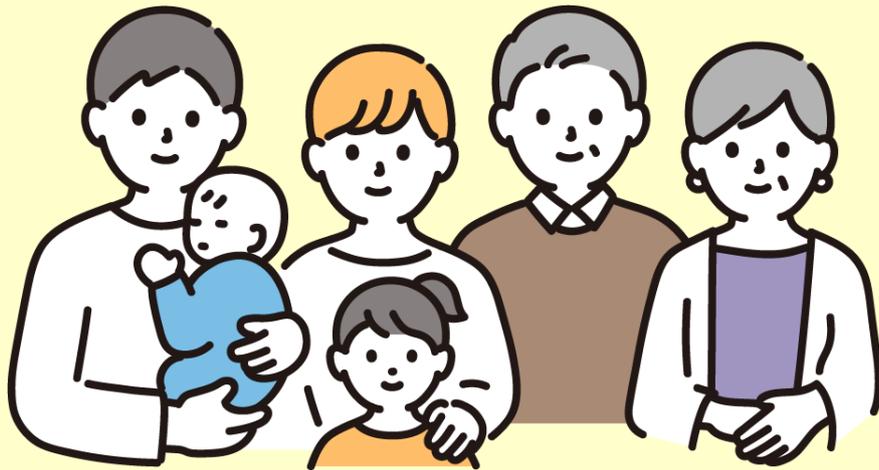


飯山市地域福祉計画

令和5年度(2023年度)▶令和9年度(2027年度)
〔概要版〕

みんなが「ごちやまぜ」につながって
あつたか福祉のまちづくり



基本理念

とうどの心で やさしくつながり 支え合い
誰もがその人らしく暮らし続けられる
共生の郷(ふるさと)づくり

今だからこそ、みんなで考え、知恵とずくを出し合い、
これから先の地域を支え、ここで生き続けるための福祉の地域づくりへ

地域福祉 計画とは

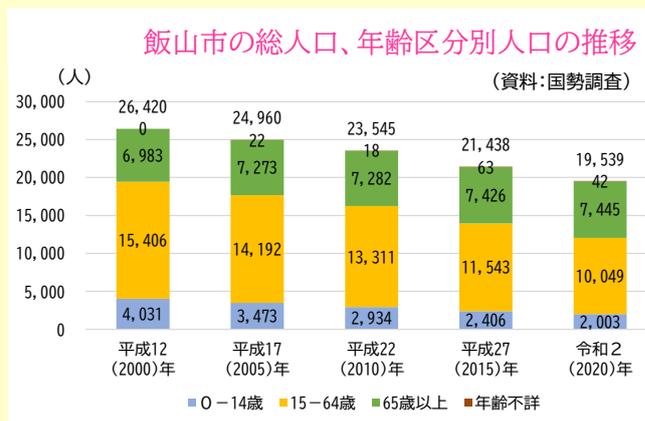
「飯山市地域福祉計画」は、飯山市をひとつの大きな地域ととらえ、地域に軸足を置いた福祉のまちづくりを進めるために、福祉行政分野の上位計画として策定したものです。

この計画は、今年度から5年間を計画期間として、行政(市)・福祉サービス事業者・市民・地域の様々な団体・ボランティアや NPO など、みんなで、そっと気かけ合い、互いに助けられ、手を差し伸べ合い、この地で暮らし続けることを目指しています。

計画策定にあたり、飯山市地域福祉計画策定委員会委員の皆様により10か月を費やして議論が行われました。これからの地域とそこで暮らすみんなの安心のために、今どんな取り組みが必要か、それぞれの立ち位置で何ができるかという視点で、目指す方向性を基本理念に掲げ、3つの基本目標で具体化を図りました。

地域の現状 暮らしの 困りごと

私たちが暮らす飯山市の今と未来を考える視点として、ここでは
①少子高齢化の進行 ②高齢化率の高さ ③アンケートから見えることをピックアップします。



① 飯山市の総人口は減少し続けており、令和2年(2020年)は平成12年(2000年)と比較して6800人減少。特に15歳未満が半減、生産年齢人口(15~64歳)も3分の2まで減り、65歳以上は増加しています。また、新生児出生数も年間100人を切る状況になっています。

② 総人口に対する65歳以上人口の比率を示した高齢化率は、令和4年(2022年)10月時点では39.3%となり、長野県および全国平均を大きく上回っています。高齢化が全国的な動向よりも急速に進んでいる状況で、飯山市では2045年ごろには人口の半数以上が65歳以上になると推計されています。

高齢化率の推移(各年10/1時点) (%)

年	飯山市	長野県	全国
H25(2013)	32.7	28.3	25.1
H30(2018)	37.2	31.5	28.1
R4(2022)	39.3	32.7	29.0

民生委員になってみて、あらためて地域とのつながりやとなり近所の支え合いを大事に思ったよ。



③まちづくりに関する住民アンケート(令和3年実施)、民生児童委員アンケート(令和4年実施)の結果から



災害への不安は常に。対策は？

日常の買い物の利便性、交通手段もなんとかならないから。



地域での見守りや助け合いは、ひとり暮らしのお年寄りも増え、日ごろから本当に必要。

さらに歳を重ねたら冬の暮らしは心配です。



これからは医療体制や除雪支援の充実がますます重要になるね。

安心して暮らすには近所とのつきあいが今も将来も大事だね。

地域に子どもがいない。赤ちゃんや親子への福祉、子どもの遊び場などの充実を。

コロナで集まりにくくなったね。

基本理念と

とうどの心で やさしくつながり 支え合い
誰もがその人らしく暮らし続けられる
共生の郷(ふるさと)づくり

基本目標

基本目標1

つながり合い、支え合い、自分らしく暮らせる、お互いさまの地域づくり

方向性 地域の住民それぞれに支え合いや助け合いについて考え、参加し交流することを通じ、日ごろから気にかけてくれる地域づくりを目指します。地域は、様々な背景や個性を持った方々が共に暮らす場です。それぞれができるところから、お互いさまの心でそっと寄り添えるよう、子どもの頃からの福祉教育、地域活動の体験を推進します。

(1)住民相互のつながりと地域活動への参加意識の向上

(2)多様な住民の地域生活課題の共有と見守りの推進

(3)福祉の心を育てる学びの推進



取り組みのヒント

- 身近な地域でのあいさつや声かけの促進
- 地域の行事、公民館活動への参加
- 困りごとを話せる関係づくりの啓発
- 地域に暮らす多様な人たちとの共生意識醸成
- 学校教育での福祉体験やボランティア活動から福祉人材の育成へ

基本目標2

困りごとを受け止め、多様なサービス連携により解決を目指す仕組みづくり

方向性 少子高齢化を背景に、困りごとの複合化や多様化が進んでいます。市ではこうした市民の困りごとを総合的に受け止め、必要に応じて専門機関へとつなぐ相談支援体制の強化を図ります。また、地域や学校、民生児童委員や福祉事業者などの連携で複雑な課題の解決に向けた切れ目のない相談支援体制づくりを目指します。

(1)多様な困りごとを受け止める相談支援体制の強化

(2)複合的な課題を地域の多様な機関が連携して解決していく体制づくり

(3)すき間なく、切れ目のない支援体制への連携強化

取り組みのヒント

- 市総合相談窓口の活用と関係機関との連携強化
- 住民が互いに気にかけてくれる関係づくり
- 地域の困りごとを自分ごとと捉える互助・共助意識の醸成
- 事業者・民生児童委員・医療機関などとの連携、協力の場づくり



基本目標3

ごちゃまぜでつながり、みんなが安心して暮らせる福祉のまちづくり

方向性 性別や年齢、国籍や出身地などにこだわらず、住民がごちゃまぜになって知り合い、交流し、互いを認め合える意識の高揚が、元気な地域づくりにつながります。誰もが、その人らしく、望むところで暮らすために、冬期間や災害時の助け合い、医療体制の維持とともに、心身の健康増進や介護予防への努力も必要です。また、高齢者や障がい者、児童などの虐待防止、成年後見制度の利用促進等の啓発により、地域の安心と福祉の向上を目指します。

- (1)互いに多様性を認め合い、その人らしく暮らせる地域づくり
- (2)安心・安全な生活環境と災害時等の支援体制の整備
- (3)心身の健康と介護予防の推進と地域医療体制の維持
- (4)権利擁護と成年後見制度の利用促進【飯山市成年後見制度利用促進基本計画】
- (5)再犯の防止に向けた取組【飯山市再犯防止推進計画】



取り組みのヒント

- 住民相互の認め合いと多様性尊重の意識醸成
- 人権や思いやりの心を育てる教育の推進
- 認知症への理解を広げる啓発推進
- 障がい者とのインクルーシブな関係の浸透
- 個別避難計画や支え合い防災マップづくりの推進
- 安心な冬の暮らしのための施策推進
- 要支援者の避難行動への支援
- 定期的な健診等で、自分の心身の健康管理
- 虐待防止の啓発と発生時の迅速な対応
- 成年後見制度の理解と利用の促進
- 保護司会等と協力し、再犯防止・社会的孤立を防ぐ意識の啓発

誰もが その人らしい 暮らしを



基本理念冒頭の「とうど」という言葉は、飯山地方の方言で漢字では「田人」などで表現され、農作業の手伝い、さらには助けることを意味します。雪深い飯山に昔から根付く「とうど」の心を一人ひとりが再認識して、やさしくつながり、お互いさまで支え合う、共生の郷(ふるさと)づくりを目指したいと、あえてこの言葉を使っています。

21世紀の現在も、この地で暮らす大変さや不便さは、個々の状況により様々です。自分のことから視野を広げ、周りの人、地域の人を気にかけて、気にかけて、誰もが支援したり、支援されたりできる「福祉のまちづくり」、それがこの計画が願うところです。

人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら、誰もがその人らしく安心して暮らし続けられる、持続可能な地域社会の実現に向け、この計画を「自分ごと」として捉え、みんなで、できることからスタートを切りましょう。